

あぷろうち

～ approach ～



日本労働組合総連合会
群馬県連合会（連合群馬）

発行人 高草木 悟
編集人 田村 英樹

〒379-2166
群馬県前橋市野中町361番地2
(群馬県勤労福祉センター2F)
TEL 027-263-0555
FAX 027-261-0549
Eメール info@gunma.jtuc-rengo.jp
URL http://www.rengo-gunma.gr.jp/

2017年2月号
No.253

「底上げ・底支え」「格差是正」で =2017トータルライフアップ全県集会開催=



クラシノソコアゲを実現しよう!



1月14日、群馬県社会福祉総合センター大ホールにおいて、2017トータルライフアップ全県集会を、産別、地協、議員懇など301名が参加し開催しました。

はじめに富澤会長から「月例賃金にこだわった闘争を進めてきたことで、2014春闘から3年連続で賃上げを勝ち取ってきた。この良い流れを今春闘でも継続させ、そして確実なものにしなければならない。また、働き方の見直しでは働き方改革がスタートし、長時間労働の是正に向けた論議がされている。誰のための、何のための働き方改革なのか？言うまでもなく主役は“私たち働く者”である。労働組合はチェック機能を高め、日頃の点検活動や労使協議を通じてより良い労働基準を確立させることが重要。中小、未組織までその取り組みを波及させていくことが労働組合としての役割と考えている。3月中旬には大手の組合で回答が出されるが、中小、地場労組ではその頃から交渉が本格化する。連合群馬では3月27日に高崎で中小労組春季生活闘争決起集会を行い、春闘情勢の共有と世論喚起を行っていく。『連合が役割と責任を果たし、活躍するフィールドは地域社会にある』このことをみんなで共有し、『すべての県民が安心して暮らせる地域社会の実現』に向けてともにがんばろう。」といった挨拶がなされました。



続いて、連合本部の大久保労働条件・中小労働対策局長から、「2017春季生活闘争方針は、『経済の自立的成長』『包摂的な社会の構築』『ディーセント・ワークの実現』をめざす取り組みである。そのためには引き続き所得向上による消費拡大を図る必要があり、すべての働く者の賃金の『底上げ・底支え』と『格差是正』の実現に取り組む。『底上げ・底支え』『格差是正』のためには、『大手追従・準拠からの脱却』『サプライチェーン全体の付加価値分配』の取り組みを前進させな

ければならない。とりわけ、規模間格差の是正に向けて、中小組合における賃金実態把握と賃金制度確立を徹底するとともに、経営者団体および行政とも連携して公正取引の推進に取り組んでいく。具体的には、賃上げについてはすべての組合が月例賃金にこだわり、定期昇給相当分（賃金カーブ維持相当分）を確保したうえで『底上げ・底支え』『格差是正』にこだわった月例賃金の引き上げをめざす。また、企業内最低賃金は、産業の公正基準を担保するにふさわしい水準で要求し協定化をはかる。そして適用労働者の拡大をめざす。規模間格差の是正（中小の賃上げ要求）については、中小組合の平均賃金を基準とした引き上げ額をベースとしたうえで、『底上げ・底支え』『格差是正』をはかる観点で、連合加盟組合全体平均賃金水準の2%相当額との差額を上乗せした金額を賃上げ水準目標（6,000円）とし、賃金カーブ維持分（1年・1歳間差）（4,500円）を含め、総額で10,500円以上を目安に賃金引上げを求める。非正規労働者の労働条件改善については、正社員への転換ルールの導入、明確化、転換促進。無期労働契約への転換促進など、雇用安定に向けて取り組む」などの説明がありました。



その後、j.union(株)の西尾力会長（写真右上）を講師に招き、「春闘の現状と課題～いかに組合員を巻き込むか～」と題した講演会を開催しました。続いて、JAM群馬の鈴木事務局長から構成組織を代表しての決意表明を行った後、参加者全員でガンパロー三唱を行い、2017春闘の勝利に向けた意思統一をはかりました。

中小労組春季生活闘争決起集会

と き◆3月27日(月)18:30～
と ころ◆高崎ハローフォーラム

新春労使共同セミナー

元プロ野球選手 西本さん
▼指導者としてあるべき姿▼

現役エピソードを交え当時を語る

新春恒例の新年労使共同セミナーを開催し、経営者・組合関係者ら400名が参加しました。



開催にあたり富澤会長から「あけましておめでとうございます。働き方改革が加速している中で、働き方を見直すのは労使でしっかりと話し合っていくことが重要である。その上で日頃の点検活動や労使協議を重ねてより良い職場づくりに向け連携をしていきたい。」と新年の挨拶がなされました。

第1部の講演会では、元プロ野球選手の西本聖さんを招き『指導者としてあるべき姿』と題し、巨人軍で活躍されていた頃の江川選手とのエピソードや、20年間の現役の中で培われた監督やコーチとの関わり方など、当時の隠されていた本音を交えて話され「指導者との出会いはたくさんあるが、自分も無我夢中だった分、良い思い出は少ない。だからこそ反面教師ではないが、

指導者になった時に活かされる部分が多かった。自分では選手の環境づくりを手助けし、システムづくりを心掛けていた。本人の能力を把握するとやるべきことが見える。まずは選手に好かれようとしな、どうにかして成長してもらいたいと思う気持ちが大切。」など力強い講演をいただきました。

第2部では、群馬県副知事や群馬労働局長を招いて、組織の枠を越えて和やかに交流を行いました。



西部地協は1月17日、メトロポリタン高崎で新年のつどいを開催し、構成組織や企業など66名が参加した。統合前の富岡地協として、03年から毎年時期のテーマでパネルディスカッションや新春セミナーを開催。15年に3地協が統合、西部地協としては初めてとなるセミナーは、東海大学政治経済学部 川野特任教授を講師に「2017年の日本経済・景気動向」と題して講演を行った。



☆新春セミナーを地協で開催するのは西部地協のみ



高崎地区労福協（連合・勤労者スポーツ協会・事業団体等）は、1月20日に開催された『連合高崎地協新春のつどい』において、これまでの活動を通じて寄せられた愛のカンパから10万円を高崎市社会福祉協議会に寄贈した。

この取り組みは、98年、各団体が個別に実施していたものを統一し、より地域社会に貢献するため毎年実施。当日は、勤労者スポーツ協会の入澤会長代行から松橋社会福祉協議会会長にチャリティ金が贈呈され、「市民のために有効に活用させていただく」との謝辞が述べられた。また、高崎市等が行う福祉事業へのボランティア貢献が認められ、今年25日“市民福祉大会”の中で表彰される予定。



☆愛のカンパの浄財を新年のつどいで社福協へ寄贈

2017年「県民意識調査」展開中

連合群馬では、群馬県をはじめ県内35の全市町村に提出する「政策・制度要求と提言」の裏付けとする「県民意識調査」を実施し、県民・地域住民のニーズを把握しています。

県民意識調査にご協力をお願いします。

組合員以外の方については、連合群馬のホームページのトップページにあるバナーから意識調査の回答ができますよ～～～チェックしてネ!!



募集 助成団体！地域の絆 愛のカンパ

連合の組合員およびその家族、OB（家族を含む）が運営に参加しているNGO・NPOを推薦してください。

連合 愛のカンパ

募集3月31日(金)まで

連合・愛のカンパへは毎年約1億円を超えるカンパ金が寄せられています。カンパ金を各団体・組織へ寄贈することで、ハンディキャップを持つ人たち、大規模災害の被災者といった援助を必要とする多くの人々を支援しています。

本年も産別や地協が日常的に連携している団体や、連合の組合員およびその家族、OBが運営している団体を募集します。推薦いただいた団体は連合群馬で選考の上、連合本部へ推薦申請いたします。

連合群馬 愛のカンパ

募集6月23日(金)まで

連合群馬・愛のカンパへ寄せられた善意を、地協に協力実績があり、県内に活動拠点がある社会貢献活動（NPO・NGO・ボランティア団体）を展開している団体へ寄贈します。助成は年度ごとに1回、計3回までです。活動概要・決算書を添付していただき、選考を決定します。上限は20万円です。

皆さんの善意を形に…

カンパ、助成団体推薦へのご協力よろしくお願ひします。



前橋市議会議員選挙 推薦候補者全員当選

2月12日に投開票された前橋市議会議員選挙は、定数38に対して45名が立候補する中、連合群馬組織内候補者5名は、推薦組織や前橋地協を中心に、連携する組織や近隣地協の協力により、見事当選を果たすことができました。

ご理解とご協力に感謝申し上げます。

ほその 勝昭	【自動車総連】	2,245	当選
みつもり 和也	【自治労】	3,409	当選
みやた 和夫	【情報労連】	2,397	当選
つのだ 修一	【電力総連】	2,198.493	当選
藤江 あきら	【国公総連・日教組】	2,580.361	当選

連合群馬議員懇主催 群馬県予算学習会

2月15日、群馬県庁議会庁舎で、議員懇主催「群馬県予算学習会」が開催され、議員懇会員・産別・地協役員など参加しました。『ぐんまの未来創生予算』と銘打ち、「厳しい財政状況にあっても、人づくりをはじめとした未来への投資を着実に進め、群馬らしさを活かした豊かな社会の実現に向けた予算を編成した」と予算のポイントを抜粋し説明を受けたのち、活発な意見交換を行いました。

これから始まる、県および市町村での2月3月（予算議会）に向け、各議会での活発な論議を行い、「すべての県民が安心して暮らせる地域社会の実現」に向け取り組みを行います。



衆議院議員 宮崎タケシのマジメひとすじ

NO.8

通常国会は1月20日に開幕し、今は一年間で最大のヤマ場である新年度予算審議の真っただ中です。

私こと宮崎岳志は2月3日、予算委員会の冒頭に行われる基本的審議に登壇し、安倍晋三総理らへの質疑を行いました。二期目となり在職五年を超えましたが、総理大臣への質疑は初当選以来初めてです。



質疑では、まず文科省の天下り問題を取り上げ、天下りの大学教授が極めて少ない授業しか担当していないことなどを明らかにして、予算と権限を利用した霞ヶ関による「大学支配」の打破を訴えました。

また、日本とEUの経済連携協定（EPA）についても質疑。地元群馬の農業を念頭に「酪農・畜産分野ではTPP

以上の打撃になる。農家の皆さんに安心していただくためにも交渉状況に関する情報の公開を」と求めました。

審議の様子は翌日の上毛新聞に掲載されたほか、民進党HPに『【衆院予算委】天下り規制「根本的な再発防止策が必要」と宮崎議員』との記事が掲載されていますので、ぜひお読みください。

(<https://www.minshin.or.jp/article/110851>)

予算委員会では、特に金田法務大臣や稲田防衛大臣が、意味の通じない答弁を繰り返し、絶句して立ち往生するなど、答弁能力の欠如が浮き彫りとなりました。また、総理肝煎りの「働き方改革」も、労働強化に繋がる内容が含まれており注視していかなければなりません。

充実した国会審議を通じて、数の力に驕る安倍政権の横暴に歯止めをかけ、あくまで国民目線から生活向上のための政策を実現するため、頑張っていきます！

(2月17日記)

ユニオンガールズ TALK No.6

わくわく
和久井 麻衣さん

連合群馬女性委員会 副委員長
連合群馬 執行委員
J P 労組群馬連絡協議会 幹事



組合員と同じ目線に立つことを心がけて

—女性委員会、2年目です—

2015年12月の総会から役員を引き受けて視野が広がりました。自分の組織でも様々な面で活かせるように、会議や行事のたびに新しい情報を仕入れようと思っています。同時に、自分たちの組織での活動も多く知ってもらいたいですね。

—日常のお仕事は—

郵便局の窓口で、郵便・貯金・保険の引受・事務・営業をしています。田舎の小さな郵便局ですので、いらっしゃる方もお年寄りが多く、いつも窓口で世間話に花を咲かせています。ただ話をするだけでなく、話の中からその方のニーズを聞き出してさまざまな商品をご提案したり、お客様に沿ったものを案内できるよう、心がけています。大変なことも多いですが、お客様が名前を覚えてくれたり、「ありがとう」と言ってもらえたりすると、本当にこの仕事をしてよかったなと思います。

—では、組合役員になったきっかけは？—

7~8年前に、現在所属している支部の書記長から、私の同僚に「支部女性フォーラムの幹事をやってくれないか」と話があり、「私と一緒にあれば引き受ける」ということで、半ば道連れで役員をやることになりました(笑)。当時は組合活動自体にほぼ関わっておらず、何をするのか、しているのかもわからずに、とりあえず会議に出ていた、という感じでした。

—組合役員としての活動状況や組合員との関わり方は？—

支部女性フォーラム役員を経て、30歳以下で組織するユースネットワークの役員、現在は群馬連絡協議会の幹事となり県全体で6支部あるうちの一つを担当支部として、指導する立場です。指導といってもまだ役員としての知識は浅いので、私も勉強させてもらっています。また、ユースネットワーク担当として、若い世代の育成にも関

わっていますが、私が役員をやっていた頃とは全く違うタイプの子が多く、思いもつかないことを発言したりするところも面白いですし、私自身の成長にもつながっていると思います。

このような活動の中でも、いつでも組合員に接するときは「同じ目線に立つ」ということを心がけています。役員を長くやっていると、気付かない間に難しい言葉を使ってしまうたり、職場での問題もどこにでもあることだから、軽視してしまう傾向が大なり小なりあると思います。相談している相手なら、J P 労組の顔として見られているのだから、相手の気持ちになって考えないといけないと思っています。同時に、組合員はお客様ではないですから、一緒に悩み考え、活動してもらうことが当たり前だと思っています。

—男女共同参画について、考えを聞かせて下さい—

まずは男女ともに意識改革だと思っています。労働組合の活動の面でも、やはり子どもがいたり、家庭がある女性は長い拘束時間の会議等には出席しづらい、役員自体を引き受けることを躊躇してしまいます。“会議は長引いて当たり前”“役員だから出席して当たり前”という風潮は今の時代の流れにはそぐわないと思っています。なかなか出席できない方々の意見が今の組合には重要なもの。もっと決められた時間内で効率の良い会議等を心がけ、特に家庭がある女性（もちろん男性も）寛容な対応をしなくてはならないと感じています。私自身は家庭で良き理解者に恵まれて活動ができていますが、みんながみんなそうではありません。大きなくくりになってしましますが、社会全体で働き方を見直すこと、お互いが支え合う寛容な社会を作ることが重要だと思っています。

—リフレッシュしていることはありますか—

旅行が好きなので、休日はよく夫といろいろなところに出かけています。ご当地グルメで、あやしそうな物も、とにかく食べてみないと気が済まない性格なので、積極的に挑戦(?)しながら楽しんでいます。また、春から秋にかけて、地元の仲間と登山に行きます。ここ数年はなかなか皆の都合が合わず年に数回しか行くことができませんが、上毛三山や白根山、長野の燕岳や木曾駒ヶ岳など、群馬周辺の山を中心に登っています。春になるのが待ち遠しいですね。

Listener
吉田 香苗



地元の仲間と
白根山の山頂で
(和久井さん右)



「安心して働きたい・暮らしたい」
【2017春季生活闘争について】

2017春季生活闘争は、「底上げ・底支え」「格差是正」でクラシソコアゲを実現しよう！、「長時間労働撲滅でハッピーライフの実現を！」をキーワードとして取り組む闘争である。

中小企業の賃上げに向けて、2016春闘より「大手追従・大手準拠」などの構造の転換に挑戦してきたが、大企業との賃金格差は依然大きく、「公正取引の欠如（過度の値引き要請・納期管理など）」がその一因であると考えられている。マクドナルドの経済成長のために、日本の企業の99.7%、労働人口の7割を占める中小企業の「底上げ・底支え」「格差是正」は不可欠なものとなっている。

今、日本が直面する課題とすると、超少子高齢化・人口減少社会であり、労働力人口の減少がもたらす人手不足は、多くの企業や産業において顕在化している。日本経済を持続可能なものとしていくためには、その担い手である労働者の心身の健康保持を前提に、子育て等の家庭生活、地域活動、自己啓発等に必要不可欠な時間と労働時間を柔軟に組み合わせ、労働者一人ひとりが心身ともに充実した状態で意欲と能力を十分に発揮できる環境の整備（包括的な社会的構築）が重要である。長時間労働の撲滅は、労働者における社会的時間の確保のみならず、企業における生産性の向上や時間外手当の削減など、様々なメリットが期待される。労働者一人ひとりが生き生きと活躍し、ディーセントワークの実現に向けた取り組みが必要である。

3月27日には中小労組支援として、「中小労組春闘決起集会」を高崎の地にて実施する。「底上げ春闘」を今次闘争においても継続し、さらに社会全体に拡げていこう！
(田村)